

経営部門

新潟県長岡市

田口 正一【肉用牛肥育経営】

借入金ゼロに向かって努力を続けてきた和牛肥育経営
—借入金教えてくれたもの—

平成18年度全国優良畜産経営管理技術発表会最優秀賞



田口さんご夫婦と後継者

田口さんの経営は、県中央部の長岡市北部平地の稲作地帯に位置し、黒毛和種肥育90頭と水稲510aの複合経営である。

経営の特徴をあげると、第1に借入金ゼロを目標にして努力を重ねて経営向上してきたことである。経営開始直後の昭和51年に1,224万円の融資を受けて経営の拡大を行ったが、毎年の約定償還額の資金繰りには大変苦勞した。このことを肝に銘じて、完済後は借入金による経営資金の調達を行わず、自己資金を使いながら緩やかに経営基盤を作り上げてきた。この努力が実り、多額の運転資金を要する和牛肥育経営にあって、ここ数年間の自己資本比率がほぼ100%を達成しており、優れた財務内容となっている。

第2に低コスト生産に努めて自己資金を蓄積してきたことである。① 日常的に記録・記帳を行い、無理・無駄のない合理的な経営を行っている。② 牛舎施設は古電柱などを使用して1坪当たり約7万円という低コストで建設し、また、機械は自身の手で修理と保守管理を行うなど経費の節減を図っている。さらに粗飼料生産・収集機械等を共同で導入するなど投資額を少なくしている。③ 日頃から管理観察の徹底と牛舎内の飼養環境を良くすることで、飼養牛の事故や疾病によるロスを少なくしている。④ 転作田や河川敷から収穫する飼料作物と刈り取り後の水田から収集する稲ワラの給与によって、粗飼料自給率100%を実現し、年間300万円余りの飼料費節減につなげている。

第3に粗飼料自給率100%の体制を整備したことである。地域で肥育経営を行う2人で共有する機械使用等により、① 転作田による白ピエの収穫を実現、② 河川敷を利用した牧草の生産、③ 水稲収穫後の稲ワラを収集をおこない、粗飼料の100%自給を実現するとともに、収穫・収集した水田にたい肥を散布して循環型農業を実践している。

第4に後継者育成や消費者との交流に尽力していることである。今後とも経営を継続させるためには、後継者に諸技術を伝えていくことはもちろんであるが、地域の担い手に自身が持つ優れた経営技術を伝え、地域全体の経営技術の高位平準化を図ることも重要な課題である。田口さんはこれを実践し、「にいがた和牛」の増頭と品質向上に努めている。また、県立農業高校生の研修の場や消費者(親子)のふれあいの場として農場を開放し、生産現場から安全な畜産物の実態、知識を普及している。

以上のように田口さんは、「借金ゼロ」と「粗飼料自給率100%」という経営目標を掲げ、これの実現に向けて、家族や仲間の協力、耕種農家との協調を得ながら、日々努力を積み重ね、優良な成果をあげている。さらに、後継者も就農しており、今後とも高い水準での経営継続が期待される。

▼長岡市の稲作地帯に立地している畜舎



▼清掃の行き届いた牛舎内部、古電柱を利用して



▼毎日使用するスコップ等は水洗いをし清潔にしている



▼集団転作田における粗飼料生産（白ビエの刈り取り）



▼稲ワラの収穫・調製作業



▼転作組合員の水田および稲ワラ収集田に堆肥散布を行い、耕畜連携に努めている

